# 鹿大広報

No.150
April/1999

編集・発行
鹿児島大学
広報委員会

特集：入学−夢と喜び−

# 目　次

## ■特集　　入　学 ― 夢と喜び ―


新入生の皆さんへ …… 学　　長　田中　弘允 … 3
ボーダレスの時代を生きる …… 学 生 部 長　野　　勉 … 4
魂のこもった青春を …… 共通教育委員会委員長　山原　芳樹 … 5
新しい鹿児島大学で学ぶ学生諸君へ …… 法 文 学 部 長　石田　忠彦 … 6
新しい時代に向って …… 教 育 学 部 長　坂尾　　… 7
21世紀に生きる夢を …… 理 学 部 長　堀田　　満 … 8
大学で何を学ぶか …… 医 学 部 長　佐伯　武　… 9
徳は事業の基なり …… 歯 学 部 長　笠原　泰夫 … 10
新入生に送る言葉 …… 工 学 部 長　赤坂　　裕 … 11
「競争」から「ともに学ぶ喜び」へ …… 農 学 部 長　堀口　　毅 … 12
新入生へのメッセージ …… 水 産 学 部 長　市川　英雄 … 13
歓迎の辞 …… 連合農学研究科長　宮内　信文 … 14
保険管理センターからのご案内 …… 保健管理センター所長 前田　芳夫 … 15
附属図書館を活用しよう …… 附属図書館長　山下　　智 … 15
情報を使うとき …… 総合情報処理センター専任教官　二宮　公紀 … 15


## ■学内だより


○保　　健… 喫　煙－その有害性について－ …… 前田　芳夫 … 16
○随　　想… 鹿児島大学の将来を思う …… 中西　喜彦 … 17
○研究室紹介… 世界経済史研究室 …… 榎股　一索 … 18
○留学生日記… 選　択 …… 肖　　嵐 … 19
Four Seasons in Kagoshima …… フリアン デル ブオノ ミヤゾノ … 19
○サークル紹介… 学友会（書道部・空手道部）…… 20
○鹿児島大学にはこんな（部・同好会）があります …… 21
○新任教官紹介…… 22
○図書館だより…… 22
○編集後記…… 22


**表紙デザイン**

入学おめでとう。夢を描くのにもそれを実現するにも本は頼りになるので図書館を活用し多くの本を読んでほしい。鹿児島大学附属図書館の写真をベースに“期待”をイメージに画像を処理した。

教育学部 教授 美術教育講座 梅田　晴郎

特　集

# 入 学 －夢と喜び－

## 新入生の皆さんへ

学　長　　田　中　弘　允

田 中 学 長

新入生の皆さん、永年の努力が実り、鹿児島大学に入学されましたことを、心からお祝い申し上げます。ご指導下さった先生方、ずっと育て、見守って来られた家族の方々もさぞお喜びのことと思います。鹿児島大学は、皆さんを心から歓迎致します。

鹿児島の地は、風光明媚で自然に恵まれ、そして世界に開かれた歴史をもっています。また、近くは明治維新の原動力となったことは御存知の通りです。

目を東に向けますと、どっしりとかまえた桜島があり、ある時には激しく、ある時には極めて静かなたたずまいをみせ、自然の大きさを示しています。錦江湾の美しさとロマンの香りは格別なものがあります。北の方をみますと、霧島連山の優雅な姿を望むことができ、また一転して南をみますと薩摩富士といわれる開聞岳をみることができます。また、南方海上には、世界自然遺産の屋久島と鉄砲伝来とロケット基地の種子島、さらに南にはさんご礁と自然豊かな奄美群島が連なっています。一方、市内では至る所に温泉が湧き、市民は毎日温泉で心身を休めることができます。

21世紀には、人類が自然に還り、心をいやし、人間性をとり戻す時代となるでしょう。何故なら、科学技術が進歩し物質文明が繁栄している今の社会では、豊かな心、人間らしい心が必要とされているからです。過度の競争社会、高度の技術社会では、ストレスが多く人々は、心のやすらぎを求めるのです。

私達の鹿児島は、このような目的にぴったりの場所そのものであると思います。それはまた、学問をする場、またとない青春を有意義に過ごす場、友人をつくり心の交流を行う場としても極めてふさわしいと思います。

鹿児島大学には、法文学部、教育学部の人文社会系の学部、理学部、工学部、農学部、水産学部の理工系の学部、医学部、歯学部、医技短の生命科学系の学部がありますので、学問の幅広い分野を教育し研究することができます。これは皆さんにとって願ってもないことだと思います。何故なら、21世紀には幅広い教養と深い人間性に加えて、様々なことに対応して生活できる能力がどうしても必要になるからです。このいずれもが、単に自分の志望している学部の専門教育だけで充分に間に合うものはありません。入学してすぐはじまる共通教育こそが、このような目的に合致するものであります。

最近、共通教育の授業科目の選択でかたよりが心配されています。理工系や生命科学系の学生が、人文社会系の授業をとらない、あるいは人文社会系の学生が理系の授業をとらない傾向にあるといったことです。理工系に進む学生は、特に哲学、法律、経済学、倫理、文学、芸術等を学生時代に手ほどきを受けておくことが大切です。また、文系に進む学生は、高度技術社会で生活するために自然科学を是非共、勉強してもらいたいと思います。苦手意識が先に立って、授業科目の選択にかたよりができるものと思われますが、大学の授業は様々な工夫がなされておりますし、また、魅力ある教官や人間味あふれる教官とのふれ合いにより目からうろこが落ちるといった経験をすることもよくあることです。まずは共通教育を幅広く学び、皆さんの将来の夢の実現をはかってください。

一方、鹿大のキャンパスは皆さんを主人公として迎えます。学問の楽しさを味わいながら、スポーツで汗を流し、文化活動などで自己の可能性をためしてください。若さのエネルギーで様々なことに挑戦しましょう。

また、時間をつくって、読書にいそしんで欲しいと思います。古今東西のすばらしい人物の心に出会うことができますし、また数多くの人達の経験を学ぶことができます。日本や世界の文学、楽しい読物などが皆さんによって紐解かれるのをまっています。本学の教官が書いた「本の宝箱」もよい水先案内人の役を果たすかも知れません。

皆さん、夢と喜びをもってすばらしい大学生活を楽しんで下さい。

# 特　集

## ボーダレスの時代を生きる

学生部長　　野　　勉

野　学生部長

新入生の皆さん、ようこそ鹿児島大学へ。心から皆さんを歓迎します。夢にまで描き続けてきた大学、これまでとは異なり、物心両面での束縛から開放された自由な大学での生活が始まろうとしています。“自由”なことは確かに素晴らしいことですが、そこには“危険”が同居していることにも留意してください。皆さんを一人前の自立した人間として認めることから大学生活は始まります。常に自重し、自律と責任ある行動が要求されます。

皆さんの在学中にいよいよ21世紀がやってきます。「環境問題」、「国際化」と「高度情報化」によりボーダレスの世界がますます促進されます。芸術にしても、科学技術にしても、切実さがその高まりを生んできました。貧しさの中での創作活動の結果として、幾多の名曲や名画が生まれました。最も切実な体験を余儀なくされる戦争のたびに技術のステップアップがあったことも皮肉なことです。物質的に満たされた環境では、ともすると高まりの起爆剤となる切実さが薄れ、あらゆる面での停滞を招きかねません。皆さんにとって、閉塞感すら覚えさせるこの一見平和で豊かな世界とは裏腹に、確実に進行している環境の変化はこのままでは比較的近い将来、深刻な結果をもたらすかもしれません。

今世紀における化石燃料に支えられた科学技術の発達は人間をあらゆる労働から開放し、本来、人間らしい思考のための閑暇を与えてくれました。一方、これに支えられた今世紀で60億人に達する世界人口の爆発的増加は、地球規模の温暖化、酸性雨、オゾン層の破壊、そして環境ホルモンを始めとして様々な問題を引き起こし始めています。その日々の変化を人間は感じることはできませんが、今、地球環境は確実に悪化の一途を辿っていることは確かです。日本にはたまたまその豊かさの面が偏在しているに過ぎません。今まさに、環境問題が切実なテーマとしてクローズアップしています。経済活動と環境問題が調和した「持続可能な発展」（sustainable development）を目指して、今こそ、大学が学部を越え英知を結集しなければなりません。環境問題は身近なところから一人一人が危機感を抱き参加することから始まります。“ポイ捨て”はいうに及ばず、目の前の空缶を拾うことに躊躇してはいけません。必要なのは勇気です。皆さんの自発的行動こそが環境を再生し、自然と共生する未来型の美しいキャンパスを創生できるのです。

大学としても、あらゆる意味での“共生”（co-existence）、すなわち、広義では他の生物と人間との共生、狭義では他の国家・民族との共生、他の専門・産業との共生など、他を思いやることが結果的には自らを思いやることにつながります。総合大学としての本学の利点を十二分に発揮し、研究レベルでの専門を超えた新しい試みがなされようとしています。皆さんは大学生活の真っ只中で21世紀を迎えることになります。21世紀のあるべき世界を構築するために、興味あるプロジェクトに積極的に参加して、21世紀への新しい科学技術のあり方とライフスタイルを模索し、提案してみてください。

ボーダレスの時代には、好むと好まざるとにかかわらず、「外国語会話」の修得と「パソコン」の多様な利用技術の習得は不可欠で、21世紀を生き抜く人々にとって素養ともいうべきものでしょう。本学のカリキュラムにもいくつかの関連する授業科目が用意されています。文系も理系もなく、これらの科目を積極的に受講すること、できれば楽器の練習と同様、パソコンを身近に置くことを勧めます。

さあ、研鑽の場としてのオン・キャンパスライフ、ゆとりの場としてのアフタ・キャンパスライフを謳歌して下さい。大学、とりわけ学生部は皆さんの快適なキャンパスライフを心から応援します。

# 特　集

## 魂のこもった青春を

共通教育委員会委員長　　山　原　芳　樹

山　原　芳　樹

人生にはいくつもの別れと出会いがあります。そのたびに新しい生活が始まります。入学試験の関門を突破して晴れて鹿児島大学の学生となった皆さんは今、解放感と大学生活への期待感で胸が高鳴っていることと思います。一人一人が今の気持ちを忘れずに、この瞬間と場所を自分で選びとったものとして新しい旅に挑戦し、青春時代の貴重な時間を自分のために使いながら、それぞれの道を歩んでいただきたいと願っています。

現代社会は、今急激に変化しつつあります。今までの人類が積み上げてきた知識や価値の体系が問い直され、地球規模で新しい生き方が求められつつあります。この新しい世界観を生み出すことが、皆さんには期待されています。でもこれに応えることは、楽な作業ではありません。

例えば、私たちの所には毎日色々な種類の情報が多量に届けられていて、その膨大さと多様性に圧倒されてしまいます。でも、もし皆さんがパソコンを買いたいとか、旅行をしたい等何か具体的な目標を持つと、多量な情報を整理し比較しながら、自分が必要とするものを選び取る判断が可能になります。自分の欲しい物が何か、具体的な目標意識を持つと、次にすべきことが見えてきます。

大学は教育と研究を目的として設置されています。ここで取り扱われる素材には、膨大な情報が蓄えられています。この中から、何を学んだら良いかは、皆さんが何をしたいか、設定する目標に拠ります。その際忘れてならないことは、大学で提供される学問体系は、上記の商品の例とは違って、人間や社会、自然について人類が今まで考え獲得してきた英知の結果であって、日々検証され変更が加えられている世界でもあるということです。その根底を支えているのは、宇宙をどう見るか、世界秩序の根本原理は何か、人間とは何か、等の問いかけとこれに対する一つの答えであり、数や量では表示することのできない世界観なのです。ですから、「大学で何を学ぶか」との目標を設定しようとすると、「なぜ学ぶのか」という問にも向き合うことになります。

皆さんには多くの学友・先輩・先達がいて、目の前には多様で広大な学問体系が広がっています。自分が何をしたいか、何故したいかを考え、それをまず言葉にする訓練をしてください。そして、その考えについて友人と語る勇気を持ってください。自分の価値観を、他者の批判のもとにさらけ出す強さ、相対化する幅広さを学んでください。そうすると、自分と同じ考えを持っている仲間と知り合うことができます。あるいは、隣人とは考え方が違うことに気づきます。この違いが、実はとても大事なのです。むしろ、大学生活の醍醐味は異なった価値体系に出会うことにある、と言っても過言ではありません。世界観や文化の異なる者たちが共生社会を構築することができるかどうか、に人類の明日が委ねられています。

共通教育の大きな目的は、言葉通り学部・学科の区分を越えて人類と学問の普遍性について考え、共に新しい世界を構築するための人間形成、教養に裏打ちされた基礎を学ぶところにあります。なぜ学ぶのか、を学ぶ場なのです。

これから始まる学生生活は、皆さんの青春時代の真っただ中で進行します。

魂のこもった青春はそう簡単に滅んでしまうものではない、とはドイツの詩人ハンス・カロッサの言葉です。

自分の言葉、自分の青春を見つけてください。

特　集

# 法　文　学　部

## 新しく鹿児島大学で学ぶ学生諸君へ

法文学部長　　石　田　忠　彦

石　田　忠　彦

新入生の皆さんに、入学のお祝いとともに最近の大学事情などについて述べてみます。

皆さんは４月に入学なさったのですが、今までに皆さんの予想していた大学と実際の鹿児島大学が大きく違っていることにすぐ気づかれることだと思います。

現在の大学は学問研究の場としての機能を急速に取り戻しつつあります。当たり前のことではないかと思われるかもしれませんが、このことは高校の先生などから聞かされた、大学に入るとしめたものだ、アルバイトもサークル活動も遊びも自由にできるというお話が実際には通用しなくなっているということを意味します。かつての高度経済成長の時期には、大学では勉強する必要はない、体育系のサークルに入って身体を鍛え、先輩のいうことをよく聞き、礼儀正しくしておけば、卒業後はいくらでも就職の機会があるという神話が囁かれていた時期が確かにありました。しかし今はその状況はすっかり変わってしまっています。

なぜ変わったのでしょうか。一つは、現代社会の急激な変動に対して従来の学問が追いつかなくなり、学問的な知の枠組みを変えざるをえなくなったからです。法文学部ではそのような新しい学問分野に対応するために平成９年から学部改組を行いました。そのため従来の基礎的な学問に加えて、新しいものも学ばざるをえなくなり、学生諸君は少しでも怠けると単位がとれないという事態になっています。二つ目の理由は、勿論日本を含めてのアジアの経済危機のため学生の就職が非常に困難になったためです。かつての企業は大学での教育にあまり期待しませんでした。入社してから社内教育をすればよいという考えでした。しかし現在の不況下では企業にそれだけのゆとりがなくなり、企業は即戦力を求めています。たとえばコンピューターの技術があるとか英会話が得意であるとかなどなどの技能や職能のある学生を企業は求めるようになりました。学生諸君が社会に出て活躍するためには何らかの意味での職能を学生時代に身につけざるをえなくなりました。当然のことながらこれらは一朝一夕に身につくものではありません。そのために多くのものを学ぶ必要がでてきています。

このような社会的・学問的な状況のなかで、皆さんは大学生になりました。これからの４年間はかなり厳しいものになるものと推測されます。そのような厳しさに負けずに、自己を確立していってください。自己の確立とは多くを学ぶことによってなされ、多くを学ぶためには強固な自己を確立することが必要です。そのようにして有意義な４年間を過ごしてください。

法文学部管理室・研究室・講義室

特　集

# 教　育　学　部

## 新しい時代に向って

教育学部長　　坂　尾

坂　尾

新入生の諸君、ご入学おめでとう。皆さんは今、いろいろの思いを込めて大学生としての第一歩を踏み出そうとしているところだと思います。そして、それはまた、新しい時代への第一歩でもあり、本格的な自立への第一歩でもあります。

さて、今、諸君を迎えようとしている現代は、とても流れの早い時代となっています。そして、最近その流れはますます加速していくように思われます。私が諸君の年頃であったころは、もっとゆっくりとした流れでした。高校で、校長が定年退職する教員を紹介するのに“○○先生は十年一日の如く勤められ…”といわれたのを鮮明に覚えています。今、十年一日の如くやっていたら時代にとり残されてしまいそうです。また、当時はよく、“君たちがもっと早く生まれていたら大発明もできたのに…”といわれていたものですが、それは産業革命を引き起こした蒸気機関から、原子力まで、大略重要な発明は出尽したと考えられていたからです。しかし、その後、多数の発明があり、さまざまな技術革新がなされており、それらの新技術は登場するや、たちまち従来の技術にとってかわることとなり、それらを生産する企業には栄枯盛衰があり、職業に浮沈を生じ、さらにそれは経済機構にも変革をもたらしています。これらに影響されてか人々の趣味や感心あるいは嗜好さえも急速に変遷しつつあります。

このような中で教育学部生の多くが目指している教員も、昔は黒板の前で40－50人の子供たちに一斉に授業すれば良かったのですが、今は一人一人の個性に応じた教育が求められるようになってきています。こうなってくると標準的指導法だけでは事足りず、その時々において自分でいかに対応するか考え出さねばならなくなってきました。

このように変遷の激しい時代になると、一生の知識や技能を学校において習っておくことは不可能で、これから遭遇するいろいろな事態や問題に対し、自分自身で対応策を考え出したり創出したりしなければなりません。大学ではそのようなときのための基礎的な知識や能力を学んでおき、あとは自分自身で自分の能力を高めていくことが大切になると思います。また自分の専門だけにこだわらず、広く学んで知識を求めておくことも役立つことが多いはずです。これらのためには与えられたものを学ぶ学習から自分自身で学ぶ学習への切換が、まず必要でしょう。大学は事にあたって自分自身によって対処していく、そのための能力を学びとる第一歩を踏み出すとともに、そのような生き方をはじめる第一歩を始めるところでもあります。

諸君は経済的な面では、まだ自立困難な状況ですが、学習においては今まさに自主的に自立した道を歩み始めるときです。但し、自主的とか自立ということは、すべてを自分だけでということでは決してありません。指導を受けたり相談したりすることは当然ですが、それを待つのではなく自分で求めることです。

諸君の力強い前進を期待しております。

彫塑実習風景・美術専修

特　集

# 理　学　部

## 21世紀に生きる夢を

理学部長　　堀　田　　満

堀　田　　満

今年入学される学生の皆さん方が卒業されるのは、ちょうど人類が21世紀に足を踏み入れた時になります。過ぎ去る20世紀の前半は２度の世界大戦、後半は人工衛星の打ち上げから始まる宇宙の探索、プレートテクトニクス説による地球観の大転換、分子生物学に代表されるような生物科学の展開と、自然科学のあらゆる側面での新らしい発見と創造的な理論の提唱がありました。また、革新的な産業技術から生み出される新製品には、いたる所にマイクロコンピュータが使われるようになり、あっという間にマイコンなしには自動車も走らないようになってしまいました。石油漬けとなって、20世紀の私たちの生活は一変してしまったのです。でも、20世紀に身に付いたヒトのこのような「豊かさを追い求める」生活スタイルでは、21世紀を乗り切れそうにありません。

20世紀における知的冒険と大量の情報の集積・解析・体系化は、人類に新しい知的世界をもたらしました。それが生産技術に適用された結果として、科学技術の思いもしないほどの発展と人口の爆発が起きました。その遺産として、すぐにやってくる21世紀には地球環境問題、食糧問題、エネルギー危機など人類の生存がかかった深刻な問題の発生が予想されています。どの問題をとってみても現在の科学と技術のレベルでは、うまく解決できそうにない難問題ばかりです。なぜ難問題かというと、これらの問題が科学技術だけでなく、深く社会システムやヒトの文化に関わっているからです。たとえば地球温暖化に対処する二酸化炭素やメタンガスの排出規制を全地球的な規模で行おうとしても、国際的に「合理的な合意」は得られそうにありません。石油と肥料にまみれている20世紀の農耕システムはなんとか60億人の人口をまかなっていますが、この農耕システムはいくらバイオテクノロジーが発展しても「持続的な再生産が可能な農耕システム」として維持できる可能性が見えてきません。石油を掘り尽くしたときにヒトの生活と文化はどうなっていることでしょう。諸君らはそのような問題に直面する世代です。

大学での授業には、普及啓蒙的で軽やかで、勉学の苦労なく学生に理解できるようにいろいろと工夫されたものがあります。ソフトな教育とでも名付けられるものです。今の日本では小学生の時代から「個性が輝く教育」のかけ声で、どちらかというとこのソフトな教育がはやっています。現実世界にこのような問題があるのだとか、今まで知らなかった世界を知るチャンスになる、言い換えれば「世界を見わたす視界が拡がる」きっかけとなるソフトな教育はもっと推進されるべきものでしょうが、これから諸君らが学ぶ大学での勉学は、そのようなソフトな教育だけで構成されているのではありません。現実を認識する能力、知的な世界を構築する能力、そして何よりも新しい世界を創造していく能力を鋭く磨くハードな教育が大学での教育の中核にあります。21世紀に生きる夢を見るためには、文系の学部に入学した人たちは食わず嫌いの理系の諸科学を学ぶことを、また理系の学部に入学した人たちは文系の奥深い智恵を身につけるよう努力されることを勧めます。それが21世紀を生きる夢を、大きく育てることになると思うからです。

理　学　部　１　号　館

特　集

# 医　学　部

## 大学で何を学ぶか

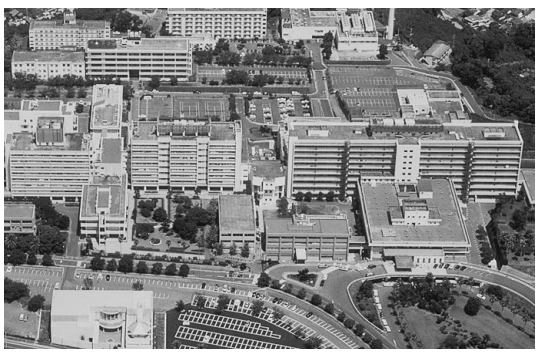
医学部長　　佐　伯　武

佐　伯　武

鹿児島大学医学部への入学、おめでとうございます。皆さんは医学部医学科または保健学科の新入生として、６年または４年と年限は異りますが、ともに医学医療の学習を行なうことになりました。ここで敢えて教育といわずに学習と書きましたのはそれなりの理由があります。今、皆さんに求められているのは、自らの手で学ぶことで、教えてもらうことではないということなのです。これまでの生徒の立場は教えてもらう、または教えに従うでした。しかし、これから大学では生徒ではなく、学生となります。自ら学ぶことこそ、学生の本分なのです。大学は、これまでの高校生時代とは異り、学生として自ら考え、自らの責任で行動することを学ぶところなのです。大切なことはなにが問題であるかを見いだし、その問題を解く方法を自ら探すことなのです。最初は戸惑うことばかりかもしれません。でも迷う時期を経て、初めて自立できるのです。すこし難しいことをいいましたが、それが青春なのです。

私が学生の時代は経験の蓄積が医学の本質でした。物事の原理、なぜ、そうなのかについては何も知られていませんでした。そのかわり覚えることも多くはありませんでした。しかし、今や、医学は長足の進歩を遂げ、数多くの生体物質の分子構造が解明され、疾患の根本原因が明らかとなり、先端的な治療法が開発されてきています。あまりにも知らなければならない知識が多くなりすぎています。すべてを覚えることは不可能になりつつあります。目的に添った取捨選択が必要になりつつあります。たくさん知識を覚えることが大切ではなく、いかに利用できるかが問題なのです。問題を見つけ、問題解決に必要な知識を選択し、実際に問題を解決する能力が本物の実力として尊重されるのです。

大学は、専門教育によって、職業人としての知識と技術を修得する所であるというのも意義の一つです。しかしもっと大切なのは、一般社会人として必要な常識をこの学生時代に得ることです。特に患者さんというヒトを対象とする医療においては、優しさ、倫理観、道徳感等の人間性が、なににも増して重要なのです。豊かな人間性は、専門以外のことに関心を持つ心の余裕から生まれてきます。そこに、教養教育の大切さ、さらには学生生活の中でのクラブ活動等を通じての、スポーツ、文化活動、社会活動などの大切さが見えてきます。鹿児島はそのようなのびのびとした学生生活や社会活動が可能な環境に恵まれています。新入生の時から、目的意識をしっかりともって行動し、いろんな分野にどん欲に挑戦してみて下さい。



医学部並びに同附属病院

# 特　集

# 歯　学　部

## 徳は事業の基なり

歯学部長　　笠　原　泰　夫

笠　原　泰　夫

新入生の皆様、鹿児島大学歯学部へようこそ！　新鮮で柔軟な頭脳を持つ諸君を迎えることは歯学部の若返りと活性化に繋がる事であろうと、教職員はもちろん卒業した諸先輩や現役の在校生諸氏も心から歓迎していることと思います。

私共歯学部は、昨年創立20周年を祝ったばかりで50年に及ぶ古い伝統をもつ鹿児島大学においては新参者の学部でありますが、この末っ子もいつの間にか附属病院や大学院歯学研究科を備えて、卒業生も1,000人を越え博士の学位授与数も100件に迫る程たくましく成長し、人間で云えば成人式を終えやっと一人前と認められる段階に到達したと云えるでしょう。

昨今の国立大学は日本経済のBubble崩壊に端を発する大混乱から、ある種の危機的局面にあると云って良いでしょう。この状況から一日も早く脱け出るためには、鹿児島大学に在籍する教職員ならびに学生諸氏の一致団結しての協力や、お互いの切磋琢磨と血の滲む様な努力が必要なことは申すまでもないことだと思いますが、これに加えて新入生諸君の私共に対する手助けも大きな力と勇気を与えてくれるものと確信しております。

では諸君の出来る私共にとって有難い手助けとは何でしょうか？　それはやる気さえあれば一番元手のかからない簡単なことではありますが本当は若干の苦痛を伴なう、諸君の頭脳を使用し必死に勉強して呉れることなのです。鹿児島大学歯学部の卒業生は医療人としても優秀で人間的にも立派であると云う評価が世間から得られれば、教える側としてもこれ程嬉しいことはありませんし、製造物に対するある種の責任を十分に果たし注ぎ込まれた国民の税金を十二分に還元していることになるからです。

云うまでもないことですが、鹿児島大学は総合大学ですから諸君の知的欲求を満たすためのすべてが揃っていると考えて下さい。勉強することは、それが初めての領域の学問であればある程取っ付きにくく面白い筈はありませんし、特にその学問の入門部分が楽しかろう筈のないことは断言できます。しかしながら諸君の将来に直接関係があると諸君が考えようと考えまいと、またそれが卒業要件であろうとなかろうと、更には修得単位として認められようと認められなかろうと、数多くの授業に手あたり次第熱心かつ貪欲に取組みそれらを吸収し身につけることが出来たならば、それは間違いなく諸君の強固なFundamentalsを形成することとなり、このBack Boneを確立させることによって諸君の能力の可能性は大きく広がり、この結果立派な人間としても世間から尊敬される素晴らしい歯科医療人としての人生が待っていることを忘れないで下さい。

本来、大学とは多種多様の学問を勉強させることによって知的水準の高い教養人を送り出し、人間社会の高度化に資すると云う側面をも有していることもその重要な役割のひとつであるからです。

諸君の有している知識量が増えれば増える程、知的で豊かで楽しい精神生活を過すことが出来る人生が待っていることを忘れず、本当の意味でのCampus LifeをEnjoyして下さる様希望しております。

どうか心酔できるいろいろな先生と出会い、良い学友を見付け、ふり返って見て価値ある6年間であったと納得できる様な毎日を過ごして下さい。

歯学部並びに同附属病院

特　集

# 工　学　部

## 新入生に送る言葉

工学部長　　赤　坂　　裕

赤　坂　　裕

ご入学おめでとうございます。厳しい受験勉強を乗り越えてほっとしているところかと思いますが、あわただしくしている内にすぐに大学での授業が始まります。合格発表から入学までは、ほんとに時間がないですね。出だしが肝心です。大学に入ったらこれをしよう、あれもしたいと色々思い描いて受験の苦難を乗り越えた人もいるでしょうが、まとまった行動計画は夏休みまで待った方がよいでしょう。大学での本分はあくまで勉学に励むことです。そこを履き違えないようにしてください。

工学部には全部で７学科ありますが、それぞれの学科に相談に乗ってくれる先生がいます。何か分からないことがあったら、自分だけで思い悩まないで相談に行ってみて下さい。カリキュラムを見ると、教養科目の選択の幅が広いのがわかります。入学時からかなりの専門科目を履修できるようになっていますし、物理学では補習教育を実施しています。よく考えて受講する科目を決めて下さい。大学では勉強も含めて何をするかを自分で決めていきます。そこが高等学校までと一番違う点だと思います。

今、日本全体が停滞気味になっています。社会構造を変革していけるような創造性や積極性のある人材を育成することが大学、特に工学部に望まれています。アメリカでは、学生が会社を起こして社長になる例も多く見られます。

日本の大学も、これまで以上に社会や産業界と共同で研究したり教育面でも協力し合わなければなりません。工学部では学生が民間企業等で研修するインターンシップ制度を導入しています。また昨年は、ベンチャービジネス論という講義を開講しました。自ら企業を起こすには、判断力、行動力、主体性、責任感が要請されます。これらはただひたすら勉学に励むだけでは身につかないが、ある意味では学力以上に大切な人間力ともいえる能力です。ベンチャービジネス論を開講したのは、誰でも起業を目指せということではなく、学力もさることながら積極性や主体性も身につけてもらいたい、そのことを普段から自覚して行動してもらいたいからでした。主な対象は大学院生ですが、この講義は今年も開講する予定です。

入学したばかりであまり先のことまで考えが及ばないかもしれませんが、学部卒業後には研究科（大学院）があります。工学部の卒業生が大学院に進学し、修士の学位を取得するのはごく当たり前のことになっています。民間企業等も学部卒業者より大学院修了者を採用するところが増えています。鹿児島大学工学部では、学部卒業生の約３人に１人が大学院に進学し、修士の学位を取得しています。

大学院についてもう少し詳しく紹介します。昨年までは工学研究科と理学研究科はそれぞれ別の組織でしたが、平成10年度からは、この２つが合体して理工学研究科が誕生しました。工と理が大学院レベルで協力し、教育研究面を一層充実させることができるようになりました。理工学研究科の博士前期課程と博士後期課程の在籍者は、現在それぞれ約400名と90名です。その中には、一般社会人や留学生もかなりいます。今後も工学部は、理学部等の他学部とも協力して、更に大学院を充実させていきたいと考えています。皆さんの中からも、博士の学位を目指す元気な人が大勢現れることを期待しています。

工学部応用化学工学科２号棟

特　集

# 農　学　部

## 「競争」から「ともに学ぶ喜び」へ

農学部長　　堀　口　　毅

堀　口　　毅

新入生のみなさん、入学おめでとうございます。これまでは、受験勉強という競争環境に中で、どちらかというと勉強に苦痛を感じていたかもしれません。しかし、本来学ぶということは大きな喜びであるはずです。大学生に受験勉強の代償として与えられるのは「遊び」ではなく、本当の学問をする機会です。学問は覚えるための知識ではなく、深く考え、物事の本質を知るためのものです。

大学時代に学ぶのは、授業からだけではありません。講義は新しいものの考え方と自分自身の生き方を身につけるための一助に過ぎません。ボランティアなど行動の中で考えるのも勉強になるでしょう。いわゆる「偏差値」なる尺度は本当の人間の生き方に取ってはとるに足らないものです。深く考え、自分自身の価値観をつくり、自分に最もふさわしい生き方を見つけましょう。自分だけの世界に閉じこもらず、広く外の世界に目を向けて21世紀の社会のあるべき姿を考えてみましょう。

いま、新たな21世紀の展望を求めて過去を振り返ってみると、20世紀に急速な発展を遂げた科学は、それが本当に人間に幸福をもたらしたのか反省の時期にあります。人類は、化石資源の開発・利用によって今日の繁栄を達成しましたが、それがもたらした環境破壊による人類生存の危険も指摘されています。

遠い過去から人類の生存を支えてきた農業・農学の歩みは、人間は他の生物と共存し、環境との調和を保ちながら生存すべきであること、地球上の物質循環は生物を媒介して初めて可能になることを教えてくれます。農学が対象とする生物資源は、循環型資源であり、地球環境保全の面から最も好ましい資源です。必然的に、農学の分野は地球規模にまで広がり、食糧生産に加えて、バイオテクノロジーと呼ばれる生物の優れた機能を利用した新産業の開発へと発展しています。このように、農学は化石資源に頼らず、長期的展望に立って人類の生存を保証し、未来の循環型産業を創造する生物・生命総合科学として、人々の健康を増進し、生物に囲まれた豊かな人間環境を創生する使命を担っています。

自然と友達となり、人間の友達も沢山つくってください。自然や友達とのふれあいは心を豊かにしてくれます。友達は本来競争相手ではなく、ともに悩み、ともに学ぶ喜びを分かち合う仲間です。すぐ隣にいる人というのではなく、時間をかけて、学部も、ときにはキャンパスも越えて、自分と考え方が共鳴できる、本当の友達を探しましょう。きっといます。せせこましい競争の中からは豊かな人間性は生れません。輝かしい21世紀のために、志を同じくする友達を見つけましょう。留学生という地球の友達と親しくなるのにも、いまがよい機会です。

人生は試行錯誤です。迷うのも、悩むのも、むしろ青春の特権であり、若さはきっとそれを乗り越えさせてくれます。そのことが心を豊にし、やがて人生の支えとなります。大学の豊かな実りは、深く考え、ひたむきに努力した人にだけ与えられます。みなさんの学生時代が有意義なものとなるよう期待しています。

農学部1号館の中庭

特　集

# 水　産　学　部

## 新入生へのメッセージ

水産学部長　　市　川　　英　雄

市　川　　英　雄

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。はれて大学生となった皆さんは、これからの数年間、自らの裁量で比較的自由に使える貴重な時間を与えられ、大学生活を送ることになるわけです。しかし、このところ日本社会や大学の教育研究をめぐる内外環境は激変しています。とくに昨年10月、大学審議会で「21世紀の大学像と今後の改革方策について」が答申されました。本学でも新しい社会の要請に応える改組が進むことになり、皆さんは恐らくこうした大学改革の真っ只中で学生時代を過ごすことになるでしょう。

21世紀は人口爆発による食糧問題、地球規模での環境問題など人類の存亡にかかわる問題が山積することが考えられ、それに対処して行くためには、理系・文系を総合した幅広い学問分野にまたがる総合化・統合化された知識とそれに基づく発想転換、新しい社会経済システムづくりなどが重要な課題となるでしょう。水産科学は魚類をはじめ自律再生可能な水産資源の持続的高度利用を基礎に発達した総合的な科学で、人類の生存に直結した食糧や環境の問題にも深く関わっています。とくに最近では、われわれ人間の諸活動の結果が集積しやすい沿岸域における化学物質などによる環境汚染が重要な問題となっており、水産科学も環境問題を重視する方向に進みつつあります。

水産学部では、創設以来、社会の要請に応えて「海や魚に大いなる夢を」託して国内だけでなく、国際的にも活躍できる学生の教育にあたってきました。日本の南に位置する立地条件を活かし、広く東南アジアなどから多数の留学生も受入れ、有能な人材として養成してきました。留学生の多くは、それぞれの母国で大学、行政機関などの研究者、職員として第一線で活躍しています。また平成９年度には、内外情勢の変化を踏まえ、学科改組を行いました。新しい教育組織は、新たな時代の要請に対応し水産総合、水産環境、水産資源の３コース制にし、水産学に関する幅広い知識とともに社会的な重要性が増している資源、食料、環境などの諸課題を総合的に教育できる組織となっています。また、水産教員養成課程の教育を独立させ、水産高校の教員志望者の質的向上にも努めています。いずれの学生も４年次には自分の興味のある研究分野（５講座）で卒論研究を行います。

地球表面積の７割を占める海、そこに棲息する生物資源を研究対象にしている水産科学は今日でも未解明な課題が多く、最近でもいくつかの新発見があり、若い皆さんが夢を実現できる可能性も大きい分野です。学習面にかぎらず、何事にも好奇心を持ち、失敗を恐れずに自分で納得のいくまで積極的に取組んでください。そうすれば必ず皆さんの新しい進路は開けると思います。有意義な大学生活を送るため、師友とのいい出会いを期待しています。

環境情報科学・漁業基礎工学・海洋社会科学及び管理棟

# 特　集　　連合農学研究科

## 歓迎の辞

宮　内　信　文

連合農学研究科長　　宮　内　信　文

月並みですが、まずは入学おめでとう！入学してみて大学を、大学生活をどんなふうに感じておられることでしょう。希望に燃えて…、それともつまらない？こんなものだろう、いろいろでしょうね。初めて親元を離れて生活する人、浪人生活を送った人、第一志望でなかった人、はるかな昔の自分に照らし合わせて感慨に浸ります。

そこで、先輩として一言。

なんやかんやあっても、大学ってやはりすばらしい所だと思いますよ。これ迄の押しつけられた受け身の学校生活とは比較にならない程の自由度があります。服装の規定だって特にない。サークルに入るとコンパがメチャ楽しい。必死に知識を詰め込むやり方じゃない。今度は自らが主人公になって、“学ぶ”番です。知的欲望を充たす番なのです。共通教育の授業には専門分野では権威ある先生が当たっておられます。鹿大に入った特権をフルに生かしてください。

自由度の高さは、言い換えると自己責任を意味します。他人ではなく自分で考え、決め、行動する。慣れないこの重さに、途方にくれておられる人も多いのではないかと心配しています。それも無理からぬことではあります。学生部や先生方に遠慮なく相談して下さい。

専門に進級しますと、大学独特のゼミ、実験実習が大きな比重を占めるようになります。ここで社会に出て即応できる技術の基礎を習得し、学問研究の世界を垣間見ることになります。実は、これがおもしろく楽しいのです。しょっちゅうやらかす失敗に夜遅くまで繰り返し実験したクラスメイトとの友情は何十年たった今でも貴重な財産となって生き続けています。かけがえのない鹿大での学生生活をどうか自分で有意義なものに育てて下さい。

ところで、新入生の皆さんにも「連合大学院」という組織のあることをぜひ覚えておいて貰いたいと思います。正確には、後期博士課程のみの「鹿児島大学大学院連合農学研究科」と呼びます。鹿児島大学に本部を置き、佐賀、宮崎、琉球各大学農学部それに本学の農、水産学部が協力しあって博士課程の教育研究を行っているユニークなシステムです。21世紀の高度科学技術社会を担うべく少数精鋭の学究達が日夜、研究に取り組んでいます。食料、環境等の近未来的課題にさまざまな角度から追求し優れた業績が生まれて来ました。国内外に広く門戸が開かれており、東南アジアを主とした留学生が６割を占めているのも特徴です。志のある人、修士、そして博士課程への道に挑戦してみませんか。

今、この国の大学制度は大きな曲がり角に来ています。高度技術社会に対応して大学院重点政策が打ち出されています。連合大学院の存在も心の片隅にどうか留めておいていただきたいものです。

連合農学研究科棟

# 特　集　保健管理センター・附属図書館・総合情報処理センター

## 保健管理センターからのご案内

保健管理センター所長　**前　田　芳　夫**

前　田　芳　夫

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。皆さん方、大学生になって、きっと張り切っていることと思います。どうぞ、その心意気を大切に、これからの学生生活を有意義に過ごして下さい。しかし、そのためには、何はともあれ健康でなければなりません。皆さん方の、この健康を守るために、鹿児島大学には保健管理センターがあります。聞き慣れない名称ですが、覚えておくと便利です。

保健管理センターにおける主な業務は、

**①　一般検診・健康相談・心理相談**

風邪や怪我、心配事等、文字通り皆さん方が日常遭遇するいろいろな病気や相談事に、毎日、無料で応じています。利用者は年10,000名（延人数）を超えています。

**②　定期健康診断**

毎年、全学生を対象に、定期健康診断を行っています。本学の学生は、毎年、この定期健康診断を必ず受けなければなりません。

**③　特別健康診断・臨時健康診断**

実験・実習やスポーツ大会に備えての特別健康診断や臨時健康診断を行っています。しかし、定期健康診断受診者に限ります。

**④　健康診断書等の発行**

就職や奨学金等用の健康診断書の発行も行っています。しかし、これもまた、定期健康診断受診者に限られています。　皆さん方も、これらの事柄をよく肝に銘じておいて、保健管理センターを上手に利用して、健康で快適な学生生活を送って下さい。

## 附属図書館を活用しよう

附属図書館長　**山　下　　智**

山　下　　智

入学おめでとう。皆さん、それぞれ新天地の雰囲気を楽しんでいることと思いますが、馴れない環境に不安になったり、とまどったりすることもあるでしょう。そんなときは気分転換に図書館に入ってみてはどうですか。

附属図書館には、中央図書館のほかに桜ケ丘と水産学部に２つの分館があります。どの図書館も同じように利用できるのですが、入学してしばらくはほとんど中央図書館を利用することになるでしょう。

中央図書館は平成９年に全面開館した５階建ての真新しい建物ですから誰でもすぐに気付くでしょう。カバンなど手荷物は持ったまま入館できます。

館内で図書や雑誌を自由に閲覧できるのは当然ですが、PACSコーナーのパソコンで図書を探したり（蔵書検索）、１階のマルチメディア端末室では図書館のホームページ、インターネット、ワープロ等を自由に利用したりできます。

図書は学生証で借りることができますが、図書館資料を複写することもできるし、学内にない資料は学外から取寄せることもできます。また、他大学の図書館を利用することもできます。詳しいことは１階のレファレンスデスクでたずねてください。

図書館を出る時は正面出口から出ますが、そこには退館システムが設置されています。図書を借りるときは出口の手前で手続きしてください。手続きを忘れて図書を持ったまま出るとブザーが鳴ります。館内での基本的なルールは守ってください。

休み時間など、気軽に図書館を利用して気分をリフレッシュしょう。

## 情報を使うとき

総合情報処理センター　**二　宮　公　紀**

二　宮　公　紀

入学おめでとうございます。

「インターネット」という言葉が、幅広い年齢層からごく自然に発せられるようになりました。インターネットの概念や種々の利用法についても、マスコミをにぎわすことが多くなりました。俗に言われる、情報化社会が着実に浸透してきていることを意味していると思われます。

このような社会に対応する人材を育成するために、鹿児島大学では大学教育改革の一環として新入生に情報活用のための基礎知識を習得してもらう講義と実習を行っています。この実習環境を共通教育棟に整備提供しているのが、総合情報処理センターです。学年が進むにつれて、より高度なコンピュータ利用を行う講義が組まれていますが、このときの実習が、総合情報処理センター内の第一、第二端末室にて開催されることがあります。

４年生や院生になると、今度は研究の一環として卒論や修論の作成を行うことになりますが、このときも総合情報処理センターの種々のコンピュータや機器をオープン端末室にて使うことができます。

鹿児島大学のネットワークをKNIT（ニット）と呼んでいます。情報活用基礎に関する講義時に与えられる利用許可書（４年間利用）で、電子メールなど種々のネットワーク利用を体験することができます。これらの運用に関しても総合情報処理センターが支援しています。

総合情報処理センターは、鹿児島大学学生の入学から卒業まで、目に見える形やそうでない状態でも学生生活に深く関与している組織です。

# 学内だより

## 保　健

### 喫　煙　－その有害性について－

保健管理センター　所長　　前　田　　芳　夫

前　田　　芳　夫

最近､嫌煙権という言葉をよく耳にします。非喫煙者にとって、煙草の煙は不快なものですが、これが人体に有害であるとなれば、事は重大です。煙草の有害物質は、タール、一酸化炭素、ニコチン等ですが、中でも、最も有害なのが、発癌性のあるタールです。皆さん方、ご存知のように、最近の煙草は殆どがフィルター付きとなっていますから、喫煙者の肺に入っていく煙（主流煙）は、このフィルターでタールが多少は濾過されます。しかし、煙草の先から立ち上る煙（副流煙）には濾過装置がありません。ですから、煙はタールをたっぷり含んだまま空中を漂い、周囲の人々の肺の中にも入っていきます。そして非喫煙者にも癌発生の危険性をもたらします。喫煙者ならまだしも、喫煙もしないのに、癌発生の可能性が高まるというのでは、非喫煙者もたまったものではありません。非喫煙者が声を大にして嫌煙権を口にするのも無理からぬことだと言えましょう。

では、喫煙にはどのような有害性があるのかと言いますと、先ず、癌発生の危険性です。非喫煙者に比べて、喫煙者の癌発生は、肺癌で10.8倍、喉頭癌で5.4倍、口腔癌で4.1倍、食道癌で3.4倍となっています。癌末期のあの苦しみを思いますと、本当にゾッとするような数値です。また、喫煙者の妻の肺癌死亡率は、非喫煙者の妻の２倍であったと報告されています。こうなりますと、喫煙者との結婚も、半分は命懸けということになります。もちろん、煙草を吸ったからといって、すぐに癌になるというわけではありません。煙草は長い年月をかけて、じわじわと「癌遺伝子」を刺激し、また、「癌抑制遺伝子」を傷つけて、正常細胞を癌化させていくのです。

一方、一酸化炭素は煙草のフィルターを素通りして、喫煙者のヘモグロビンと強く結びつき、血液の酸素運搬能力を著しく低下させます。また、ニコチンは血管を収縮させて、末梢に酸素不足を引き起こすばかりでなく、その強い習慣性から、喫煙者をニコチン中毒へといざない、煙草からの離脱を困難なものとしてしまいます。身体に有害だと分かっていても、止められないのです。喫煙者の多くは、このような状況にあるのではないでしょうか。そして若い人ほど、このような状況に陥り易いのです。かつてアメリカの煙草会社が、販路拡大のため、未成年者をターゲットにするよう極秘文書を作成していたとのテレビ報道がありました。これも未成年者には喫煙の習慣が身につき易いことを見込んでのことであったと思われます。しかし、今、そのアメリカでは、厳しい禁煙運動が展開され、販路を失った煙草会社が我が国に販路を求めて盛んに宣伝攻勢をかけています。ダイオキシンには過敏な我が国も、煙草には大変寛大だとみられているのかもしれません。

しかし、我が国における男性の肺癌死亡者は、年々確実に増加してきており、今や癌死亡者のトップを占めるまでになっています。

新入生の皆さん、大学生になったからといって、すぐに煙草を口にしたりしないで下さい。あなた方の殆どは、未だ未成年者です。我が国には、未成年者を煙草の害から守るために、「未成年者喫煙禁止法」があります。

# 鹿児島大学の将来を思う

農学部　教授　家畜繁殖学　　中　西　　喜　彦

中　西　　喜　彦

生協中央食堂で久しぶりに昼食を食べていたら、隣の席にやってきた男女の学生がいきなり二人で話始めました。隣の髪の薄くなった老教員をあえて意識したか、あるいは彼女への自己紹介で隣席の人など眼に付かなかったかは知りません。「俺は本当は鹿児島大学には入学したくなかったのだが…」、と云う話から大分関連のおしゃべりが続きました。聞くともなしに聞いていて、ふっと、鹿児島大学に入学したころの自分のことを思い出しました。

鹿児島大学は今年で創立50年を迎えます。筆者は昭和31年入学以来何らかの形で本学と喜怒哀楽を共にしたことになります。その間、九州大学大学院での４年間、内地留学で国立がんセンター研究所での１年間、在外研究員で米国ウイスコンシン州立大学での６カ月と鹿児島大学を離れたことはあります。しかし、この40年余の間ずっと鹿児島大学で学ぶことの長所や短所について考えてきました。わずかな紙面ですが、「鹿児島大学には入学したくなかった…」と言う学生の言葉を念頭に少しその感想を披露してご参考に供したいと思います。

確かに戦前からの大学と比べると戦後大学になった鹿児島大学は卒業生の社会的地位、設備あるいは在籍教官や事務官の質や数で劣っているものと当初筆者も思っていました。筆者の入学当時甲南高校や中央高校の建物がうらやましく見えるぐらい貧相な建物しか有りませんでした。しかし、40年もたってみると新制大学も施設設備が整い、風格が出てきました。卒業生も社会の各方面で素晴らしい活躍をしておられる方が多数おられます。また、人の評価も単なる末は博士か大臣か的なものから社会の底辺で地道に活躍しておられる方を評価するようになりました。知識の多少から知恵の多少を評価する風潮があります。

筆者にとって在職中一番印象に残るのは数年前インターネットシステムが本学に開設されたことです。これで情報の流れが一変しました。丁度印刷技術が知識を貴族階級から一般大衆に広げたように、インターネットが最新情報を簡単に鹿児島大学に運び込むようになりました。簡単に世界の動向を知り、簡単に自分の考えを世界に発信出来るようになりました。交通網の整備は東京への日帰りを可能にし、さらに、欧米諸国へも北海道への運賃並の経費で行けるようになりました。情報収集に関する物理的地域差は殆ど解消したと考えます。

今や入学した大学で何がやりたいかをはっきりさせて、与えられた環境の中で頑張ることが大切ではないでしょうか。一方、鹿児島大学は筆者の経験した前述の大学や研究所と比較しても決して勝るとも劣らぬりっぱな大学としての環境をもっていると思います。アメリカでも有名校の一つであるウイスコンシン州立大学は大学キャンパスの中をバスが走っており、大学の中に多くの図書館や博物館もあります。また、横に美しいメンドウター湖があり素晴らし環境です。しかし、米国と日本では大学設立の歴史の違いがあります。大学と市と言う管理者は違いますが、学生の施設利用の面からみれば、米国の基準的には鹿児島市全体を一つの大学キャンパスとの見方もできます。その鹿児島市は鎌倉時代から城下町を形成し、ザビエル聖人や鑑真上人が日本で最初に訪れた由緒ある場所でもあります。200年前は原住民が狩りをしていたウイスコンシン州立大学の場所とは文化と歴史の重みが違うと思いました。

郡元・桜ケ丘・荒田キャンパスから望む桜島・錦江湾の景色とキャンパスを取りまく生活環境は素晴らしいものです。錦江湾を行き来するフェリーに乗ると雄大さはメンドウター湖で乗る遊覧船とは規模が違います。一方、鹿児島大学は多くの附属地を大学の周辺にもっています。これを縦割り教育や研究から横断的に生かす可能性があります。既に鹿大から25キロ離れた鹿大入来牧場には天体望遠鏡の設置が計画され、天文台と鹿児島大学の共同研究が行われると聞いています。また、中央図書館を始めとして、いろいろな研究・教育施設が設置されています。

以上のように鹿児島大学での勉学のための環境、すなわちハード面は、情報網や研究施設の整備の面で旧制大学や研究所、さらに外国の大学を凌いでいるところも多々あるように思います。逆説的にはお金で解決がつくものは最新の施設がすぐ作られ充実されるようになりました。今からはどちらかと云うとソフト面で、自分が何をやりたいのかと言う勉学に対する心構えが必要と思います。鹿児島大学で学んで良かったと思えるように色々と工夫して、偏差値教育の中での負の心理状態を克服する気力が必要と思います。今一番必要なのは「敬天愛人」ならぬ「学問を敬い鹿児島大学を愛す」精神ではないでしょうか。鹿大のスタッフと学生が共に切磋琢磨して共に伸びてこそ両者の将来があると思います。

## 研究室紹介

# 世界経済史研究室

法文学部　助教授　　榎　股　　一　索

榎　股　　一　索

現在私は、1930・40年代のアルゼンチン経済史の研究を進めている。この時期アルゼンチンで実施された経済政策を語る上で欠かすことのできない人物がいる。アルゼンチンが生んだ世界的な経済学者ラウル・プレビッシュ博士（Dr.Raúl Prebisch:1901-1986）である。博士は、若くして頭角をあらわした経済官僚という顔も併せ持っていた。1930年には大蔵省事務次官、そして1935年に設立されたアルゼンチン中央銀行では実務面での最高責任者として同国の経済・金融政策に深く関与した。また第二次大戦後は国連貿易開発会議（UNCTAD）の初代事務局長としても活躍した。「プレビッシュ＝シンガー命題」に代表される彼独特の経済観は、この実務経験から生み出されたものであることは想像に難くない。

プレビッシュ博士の経済観を特徴付けるものとして、「中心国・周辺国」という枠組から世界経済を把握する分析視角が挙げられる。これを経済史研究の立場から解釈すれば次のようになる。「周辺国」は封建的要素を抱えたまま資本主義的発展を開始しなければならなかった。そこでこの封建的要素を内包する形で「周辺国」独自の社会経済構造が形成されたと考える。さらに封建的な制度・慣習等を「遅れたもの」、すなわち発展の阻害要因として単純に退けるのではなく、むしろ各国資本主義を特徴付ける重要な要素として認識する。「先進国・後進国」という私たちが慣れ親しんできた発想法に決別し、「中心国・周辺国」という世界経済の構造的把握によって経済発展の問題を解明しようとする姿勢が明確にされたのである。

これまで日本の大学では、一般的に日本経済史と西洋経済史の二科目が教えられてきた。そこには明治以降、絶え間なく続いてきた日本人の問題意識が集約されている。封建的要素を多々抱える「遅れた国」日本の発展は、「進んだ国」である欧米をモデルにして達成されるべきである、と。今でこそ日本は国際経済の中で枢要な位置を占めている。しかし第二次大戦後も、欧米に「追いつき追い越せ」という形での経済成長が追求されてきたのである。このような背景から、「西洋」対「日本」という分類による経済史教育は問い直されることもなく、当然のこととして続けられてきた。

しかし世界経済は、欧米諸国だけで成り立っているのではない。そしてこの点を最も鋭く突いたのが、「中心国・周辺国」の視角である。アジア・アフリカ・ラテンアメリカ諸国も、21世紀世界経済において重要な役割を果たすことは確実である。このことは、ここ数年の間、アジア新興工業国・ロシア・ブラジル等の「周辺国」で連続して起こった経済危機が、アメリカ合衆国に代表される「中心国」の経済に少なからざる影響を及ぼしていることからも明白である。従来の「西洋」対「日本」という対比を超えた、新しい枠組みからの問題接近が私たちにも強く求められているのである。

現在、鹿児島大学では二つの経済史講義が開講されている。そしてその一つは西洋経済史ではなく「世界経済史」と名づけられている。このことは、21世紀の大学教育と学問の新たな展開を見据えたものであると確信する。一人でも多くの学生諸君が、アジア・アフリカ・ラテンアメリカの政治経済・文化・歴史に関心を持ち、自らの手で「周辺国」の豊饒な世界に分け入ってくれることを願う。私は、せめてその扉を彼らに指し示したい。

アルゼンチン経済省（大蔵省の後身）。ブラジル通貨危機の余波を受け難局が続くアルゼンチン経済を支えるため、現在も若き経済官僚達が活躍している。

## 選　択

教育学部研究生　　肖　嵐（中国）

肖　　嵐

去年の３月に中国から来日して、もうすぐ１年になります。初めて来た時の状況は今も覚えています。自転車で外へ行く時に、よく帰り道に迷いまして、何人かに尋ねて、やっと会館を探して、ほっとしました。時には人の一生はこの道のようなもので、なにかを探しているのではないかと感じました。

中国にいた頃、日本語を勉強する機会を偶然に得ました。夏休みは長くて、どのようにして蒸し暑い夜を過ごすかを考えて、週３回夜学で日本語を勉強し始めました。そんな時に友達は冗談を言って、「日本へ留学したいですか？」と尋ねました。ずっと家に住んで、学校の食事も嫌だった私にとって、一人で外国で勉強して生活することは想像もできませんでした。けれども、卒業して仕事についてから安定した生活を過ごすあまりに、自分は心の中で何か不足があったように感じました。大学で知り合った先生に相談しました。留学のことを話した時に、この先生の話は今も印象深いです。「私は以前若い女子学生を一人で日本へ留学させることに不賛成でしたが、いま考えが変わりました。もし機会があれば、若い時に外国へ行って、勉強するだけでなく、いろんなことを見て、体験することは一番重要です。」

そしてそんな時に留学することを決意しました。仕事以外の時間に日本語を勉強して、日本語能力１級試験を受けて、去年鹿児島大学で研究生として一年間留学することになりました。

この1年間を振り返ると、本当に時間は早すぎて、道端の花、周りの海、噴火の桜島及び礼儀正しい人々は深い印象を与えてくれ、心の中でたくさんの思い出が残りました。はじめて両親から離れて、国を超えてよくホームシックになりましたが、こういう過程の中で多くの事を冷静・真剣に考えさせられて、自分も成長したと感じました。今まで本当に多くの先生方や友達の励みに恵まれたからこそ、学業は順調に進んできましたが、これからも続いて前に向かって努力しなければならないと思っております。ここでは指導教官坂脇先生と、この1年間に教えていただいた先生方に感謝いたします。本当にたくさんのことを勉強させていただいて、有難うございます。

## Four Seasons in Kagoshima

法文学部研究生　　フリアン　デル　ブオノ　ミヤゾノ（アルゼンチン）

フリアン デル ブオノ ミヤゾノ

As grandson of Japanese people I came to Satsuma on a scholarship offered by the Prefectural Government of Kagoshima to descendants of Kagoshimajins.Still in Argentina I worried about coming to a country with a complete different culture,but my interest in living and studying in Japan was so strong that deep inside me I knew it was a challenge I wanted to face.

Although it took me quite a while to settle down in what was to me,despite my Japanese heritage but due to my Italian background,still a foreign place,I found everybody so warm and friendly that I soon felt strong enough to face the hindrances I would find on my way,mainly because of my lack of nihongo.To this respect,the kindness and helpfulness and also a great dose of patience everyone in the city and at University shows me every time they notice my improving but still poor Japanese speak wonderfully of a society that is doing a good job towards internationalization.

At University,I was firstly surprised to see that some students slept in class-what would be one of the worst things to do in Argentina-and that there is hardly no discussion between teacher and students during the lectures.But on the other hand,I admire the University's facilities,such as the new library with its excellent rooms,desks and computer lab,and also the permanent calm atmosphere that allows students concentrate on their works.

Almost a year has passed since my arrival to the city of the great Sakurajima,and as my stay in the Land of the Rising Sun is coming to its end,I would like to express my deepest gratefulness to my advisor professor

Minamura Sensei for his excellent guidance not only in International Trade but also on another fields of my interest as Japanese Immigration and Japanese Economy.His support and the one I received from my friends helped me understand better my Japanese roots what,I think,meant a rediscovering of myself.I am definitely a different person from the 24-year old who took off from Ezeiza Airport last year,since not only do I have more academic knowledge but also I learnt about the culture,in all its dimensions,of this great country.

Although I know that I was given much more than what I gave,I also hope to have made others aware of facts about my country,Argentina.

All these experiences and thoughts and many more have enriched my life so much that I want to say to Japan,to Kagoshima,and to everyone who helped me live this unforgettable year,from the very bottom of my heart:Thank you very much!

# サークル紹介

## 学友会書道部

法文学部　人文学科３年　**米倉　秀和**

書道とは、書を通して人間的成長をはかるものであり、生活ぶり、姿勢、礼儀などの１つ１つに節目をつけてはじめて上手くなってゆくものであると私達は考えます。従って練習、行事等全てにおいて、けじめのある行動がとれるよう、心掛けています。

現在37名の部員が教育学部国語科の松清秀一先生の御指導のもとで書活動に励み、98年度も黎明館で書道展を開催し、好評をはくしました。また、市内六大学とも協力して、毎年六月に六大学書道部書道展を開催しています。

毎年開催される南日本書道展、県書道展などにも、精力的に作品を出品したり、直接足を運んで鑑賞・批評などして、書の素晴らしさを理解できるよう、努力しています。

今までずっと続けてきてないと無理のように思われがちですが、ほとんどの部員が初心者です。やる気のある方なら誰でも歓迎です。

供に充実した部活動をやりましょう。

９８年夏季錬成会

## 学友会空手道部

教育学部　社会科３年　**上山　洋一**

我々、鹿大空手道部は創部が1950年で、来年は実に創部50周年という大変大きな節目を迎えようとしています。この半世紀近くの間にたくさんのOBを輩出してきました。

我々の流派は小林（しょうりん）流という流派であります。これは、沖縄首里城の空手道指南役をされて首里手中興の祖と言われた糸州安恒先生の高弟、知花朝信先生が、昭和初期に宗家となられた格式の高い流派であります。

空手の道を志すものは、常に理想を高く掲げ、苦難を乗り越える努力をし、自らの力不足を反省し、謙虚な気持ちでさらに目標に向かって絶えず努力していく心構えが必要とされます。このような日本古来の武道の精神が世界的にも評価されており、こういった環境の下で稽古できることを非常にうれしく思っています。

空手道はシーズン制をとっており、大体５月から11月位までがシーズンとなっています。毎年４回ほど公式戦があり、昨年の主な成績としては、南部九州大会で３位という成績を残すことができました。ここ数年低迷が続いており、久しぶりの盛り上がりようでした。しかしながら、過去にはOBの先輩方のすばらしい実績があり、それらに負けないように頑張っていきたいと思います。

また、来年の創部50周年にすばらしい花が添えられるようにさらなる努力をしていこうと部員一同頑張っています。

練習風景（筆者左）

# 鹿児島大学にはこんなサークル(部・同好会）があります

平成11年２月１日現在

## 文化系

| NO | 部名 |
|---|---|
| 1 | フロイデ・コール |
| 2 | 吹奏楽団 |
| 3 | ポリフォニー・コール |
| 4 | 演劇部 |
| 5 | 管弦楽団 |
| 6 | ハーモニカバンド |
| 7 | クラシックギタークラブ |
| 8 | ジャズバンド |
| 9 | 邦楽部 |
| 10 | 児童文化研究会 |
| 11 | 写真部 |
| 12 | 美術部 |
| 13 | Ｅ．Ｓ．Ｓ． |
| 14 | 放送研究会 |
| 15 | マルクス主義研究会 |
| 16 | 社会科学研究会 |
| 17 | 法学研究会 |
| 18 | 教育科学研究会 |
| 19 | 哲学研究会 |
| 20 | 中国・ソ連研究会 |
| 21 | 学生心理学研究会 |
| 22 | 地理学研究会 |
| 23 | 海外研究会 |
| 24 | 理化学研究会 |
| 25 | 海洋生態研究会 |
| 26 | 生物研究会 |
| 27 | 社会医学研究会 |
| 28 | 探険部 |
| 29 | 園芸研究会 |
| 30 | 茶道部 |
| 31 | 書道部 |
| 32 | 華道部 |
| 33 | 新聞部 |

| NO | 同好会名 |
|---|---|
| 1 | 音楽鑑賞会 |
| 2 | フォークソング同好会 |
| 3 | キックス |
| 4 | マンドリンクラブ |
| 5 | ファイブエイセス |
| 6 | 映画研究会 |
| 7 | 石笑会 |
| 8 | ユースホステル同好会 |
| 9 | 将棋愛好会 |
| 10 | イヂムチ |
| 11 | 奇術同好会 |
| 12 | SF＆ミステリー研究会 |
| 13 | 野外活動研究会 |
| 14 | 第三文明研究会 |
| 15 | 釣研究会 |
| 16 | 考古学研究会 |
| 17 | 海洋研究部 |
| 18 | 天文同好会 |
| 19 | 百人一首同好会 |
| 20 | ニューミュージック愛好会 |
| 21 | スクリーンポップスバンド |
| 22 | コントラクトブリッジクラブ |
| 23 | マイクロコンピュータ研究会 |
| 24 | 障害児保育研究会 |
| 25 | ウォークキャンプ愛好会 |
| 26 | 漫画同好会 |
| 27 | 野鳥研究会 |
| 28 | 地域子ども会研究会 |
| 29 | 映像研究会 |
| 30 | 鹿児島ショパンの会 |
| 31 | Ｉ．Ｓ．Ａ． |
| 32 | ウミガメ研究会 |
| 33 | 小原流華道研究会 |
| 34 | エコロジー研究会 |
| 35 | 大川隆法著作権研究会 |
| 36 | 建築＆デザイン同好会 |
| 37 | クイズ研究会 |
| 38 | ゴールドフィッシュダイビングクラブ |
| 39 | アニメ研究会 |
| 40 | TOEIC・TOEFL研究会 |
| 41 | ロボット研究会 |

## 体育系

| NO | 部名 |
|---|---|
| 1 | 柔道部 |
| 2 | 剣道部 |
| 3 | 空手道部 |
| 4 | 弓道部 |
| 5 | ボクシング部 |
| 6 | 少林寺拳法部 |
| 7 | 合気道部 |
| 8 | サッカー部 |
| 9 | ラグビー部 |
| 10 | ハンドボール部 |
| 11 | バスケットボール部 |
| 12 | バレーボール部 |
| 13 | 硬式野球部 |
| 14 | 準硬式野球部 |
| 15 | 卓球部 |
| 16 | バドミントン部 |
| 17 | 軟式庭球部 |
| 18 | 硬式庭球部 |
| 19 | 水泳部 |
| 20 | 漕艇部 |
| 21 | ヨット部 |
| 22 | カッター部 |
| 23 | 陸上競技部 |
| 24 | 山岳部 |
| 25 | 体操競技部 |
| 26 | 馬術部 |
| 27 | 自動車部 |
| 28 | 航空部 |
| 29 | サイクリング部 |
| 30 | 舞踏研究部 |

| NO | 同好会名 |
|---|---|
| 1 | ゴルフ同好会 |
| 2 | ワンダーフォーゲル同好会 |
| 3 | スケート同好会 |
| 4 | サッカー同好会 |
| 5 | 軟式野球同好会 |
| 6 | アイスホッケー部 |
| 7 | モーターサイクル同好会 |
| 8 | 軟式庭球同好会 |
| 9 | ウィンドサーフィン部 |
| 10 | 空手同好会 |
| 11 | ソフトボール同好会 |
| 12 | 硬式庭球同好会 |
| 13 | 卓球同好会 |
| 14 | 極真空手同好会 |
| 15 | バスケットボール同好会 |
| 16 | バレーボール同好会 |
| 17 | スキー同好会 |
| 18 | スポーツ愛好会 |
| 19 | 中国武術研究会 |
| 20 | 自転車競技同好会 |
| 21 | 球技同好会 |
| 22 | パワースライド（インラインスケート） |

文化系サークル
- 部　33サークル
- 同好会　41サークル

計　74サークル

体育系サークル
- 部　30サークル
- 同好会　22サークル

計　52サークル

合計　126サークル

## 新任教官紹介

**土田　理**（つちだ　さとし）　（教育学部助教授理科教育学科）
修士（教育学）

（生）昭和35年６月13日
（学）筑波大学大学院教育研究科修士課程
（前）筑波技術短期大学
（担）理科教育（理科教育概論Ⅰ、Ⅱ他）

筑波では、聴覚障害学生に物理学を教えていました。現在、理科と数学科の境界領域が研究対象です。よろしくお願いいたします。

## 図書館だより

### －インターネットは　ワールドワイドな百科事典－

図書館には利用者用のパソコンが置かれています。おおいに利用してください。パソコンでできることはネットワーク・サービスとパソコン搭載ソフトを利用することです。とりわけネットワークで探すことのできる情報は、図書や新聞等の印刷体に比べ探しやすく、複写や加工が容易です。

インターネットの検索エンジンや、図書館ホームページでできる雑誌記事索引データベースの検索はレポート作成の参考になると思います。ネットワーク上には多種多様な情報が転がっています。ワールドワイドな百科事典と思ってください。

レポート作成の武器としてワープロ・ソフトや表計算ソフト（パソコンによっては数値解析プログラムや統計解析プログラム搭載のものがある）等があります。工夫してレポートに図や写真を貼りつけると一層アピールすると思います。

ご利用はルールを守り、見つけたデータはＦＤやMOに貯え、それを持って歩くと研究室や端末室でも利用でき、情報を確実に増やすことができます。それが論文を書くときの財産として蓄積されます。

利用するときわからないことがあれば、周りの人に聞いてください。自分以外は皆その道の先生です。

新入生諸君、卒論は間近だ。健闘を祈る。

### ■編集後記

鹿大広報も今回で150号の発行にこぎつけました。歴代の編集委員の先生方に敬意を表し、本広報のさらなる充実発展に期待をかける次第です。

４月から５月にかけては、人も自然もひっくるめて鹿大キャンパスの内外が最も華やぐ季節です。今号では、新入生を迎えるにあたり“入学－夢と喜び－”と題する特集を組みました。新入生諸君には、いろいろな部局代表者からのメッセージをかみしめて、夢と喜びに満ちた新しい生活をスタートさせて頂きたいと思います。

本号の発刊に際し、ご多忙にもかかわらず玉稿をお寄せ頂きました皆様に厚く御礼申し上げますと共に、表紙のデザインをお引き受け頂きました教育学部の梅田晴郎教授、および企画・編集・製作にご尽力頂いた広報委員の方々、並びに事務担当の庶務課大迫文書係長に感謝致します。

（医学部　小田　　紘）

### ■広報委員会委員


別府三郎（委員長・評議会）
○小田　紘（評議会）
山下　晋（補導協議会）
○北村良介（共通教育委員会）
○石川英昭（法文）　○池川　直（教育）
中島正治（理）　榮鶴義人（医）
○北野元生（歯）　福原　稔（工）
○田代正一（農）　安藤清一（水産）
田博文（医短）
（○印は第150号の編集委員）



●鹿大広報　第150号
平成11年４月１日発行
●編集・発行
鹿児島大学広報委員会
住所：鹿児島市郡元１丁目21番24号
電話・FAX：099-285-7035・7034
印刷：斯文堂（株）